

# イチゴ「さがほのか」の年内収量向上要因

## 野菜・茶業研究所

大分方式Y型イチゴ高設栽培におけるイチゴ「さがほのか」の栽培において、年内収穫果数、頂花房出蕾日、頂花房出蕾日が年内収量に及ぼす影響を分析し、各要因が年内収量へ及ぼす影響について明らかにしたので紹介する。

### 【普及したい技術のポイント】

- ①年内収量と年内収穫果数は相関が高く、8~9果/株収穫すると100kg/a株の収量が得られる。
- ②10月中旬出蕾株率を高めると年内収量が多くなり、10月中旬出蕾株率が10%低くなるごとに年内収量が5~8%少なくなる。
- ③年内収量には、育苗期の窒素中断時期、株間、頂花房出蕾日の順に影響が大きい。

#### 1) 年内収穫果数と年内収量

年内収量には平均果重より収穫果数との相関が高く、株当たり8~9果収穫すると150g/株(約100kg/a)の収量が得られる(図3)。年内平均果重と年内収量との間には一定の傾向が認められない(データ省略)。

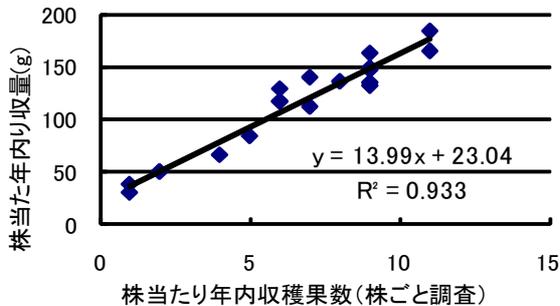


図1 年内収穫果数と年内収量  
注) 2007年: 株ごと20株調査

#### 2) 頂花房出蕾日と年内収量

頂花房出蕾日が10月中旬の時、年内収量が最も多く、出蕾がそれより早くても遅くても年内収量が少なくなる(図2)。

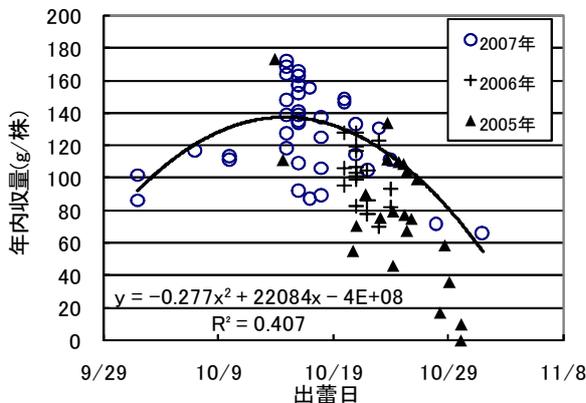


図2 出蕾日と年内収量  
注) 2005~2009年: 78試験区(780株)調査

#### 3) 頂花房出蕾時期と年内収量

10月中旬出蕾株率が高いほど年内収量が多

く、10月中旬出蕾株率が10%低くなるごとに5~8%づつ年内収量は少なくなる(図3)

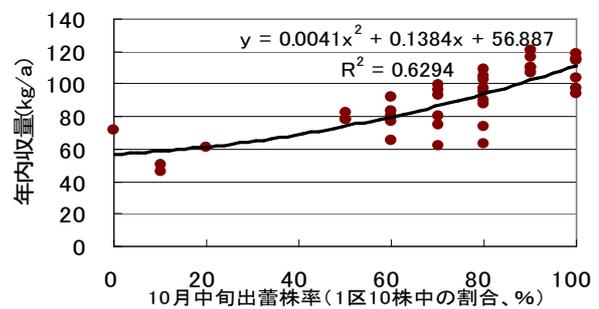


図3 10月中旬出蕾株率と年内収量(2007年)

2) 各要因が年内収量に及ぼす影響の順位づけ  
年内収量に及ぼす要因は、窒素中断時期>株間>頂花房出蕾日>頂花房花数の順に影響が大きい(表1)。

表1 年内収量の数量化I類による解析

アイテム	カテゴリー	件数	係数	レンジ	偏相関係数
窒素中断時期	8月中旬	2	40.3	67.0	0.452
	8月下旬	8	-3.4		
	中断なし	2	-26.7		
株間	15cm	2	26.7	39.7	0.594
	18cm	2	25.3		
	20cm	8	-13.0		
頂花房出蕾日	10, 14~10, 21	8	10.8	32.5	0.393
	10, 22~10, 30	4	-21.7		
頂花房花数	10以上12未満	6	9.3	18.6	0.226
	12以上14未満	6	-9.3		

定数項 109, R=0.8147

注) 2005年~2007年の試験区12処理を対象とし、各年次の標準区の収量を100とする指数で示した。

#### 【利用上の留意点】

- ①育苗は7月中旬に採苗し、8月中旬に窒素中断する。
- ②株間は20cmで、高設ベンチ間隔は120cm、栽植株数は10a当たり概ね7,000本とする。
- ③本試験は、育苗ポットでアイポット、本圃は大分方式Y型イチゴ高設栽培で行ったが、他の種類の育苗ポットや高設栽培システムにも応用できる。